

令和元年度 第2回学校評価 集計分析結果

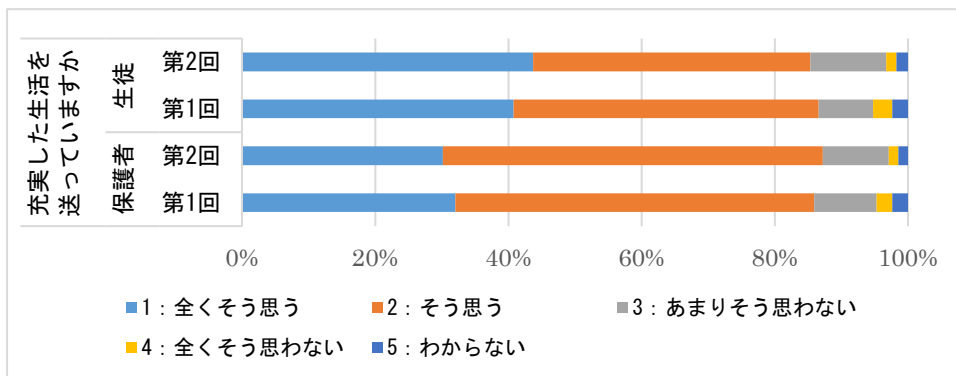
1 実施期間 令和元年12月中旬～令和2年1月上旬

2 対象

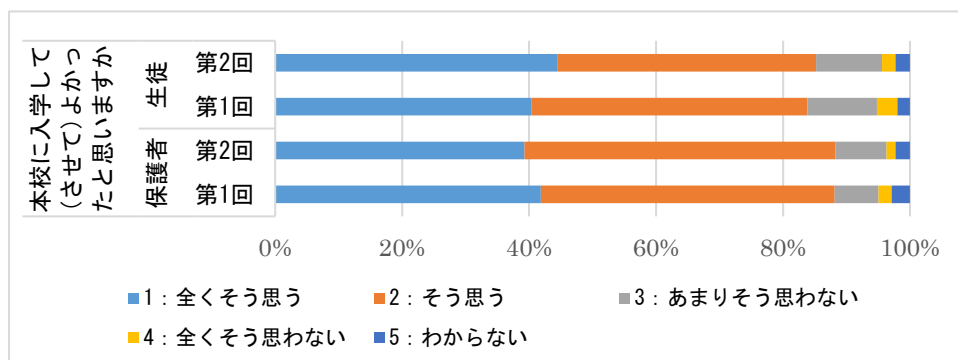
生徒（1・2年）	530名中521名提出	98.3%
保護者（1・2年）	520名中487名提出	92.8%
学校評議員・地域関係者	12名全員提出	100.0%
教職員	48名全員提出	100.0%

3 分析内容（※第1回との比較により考察しました。）

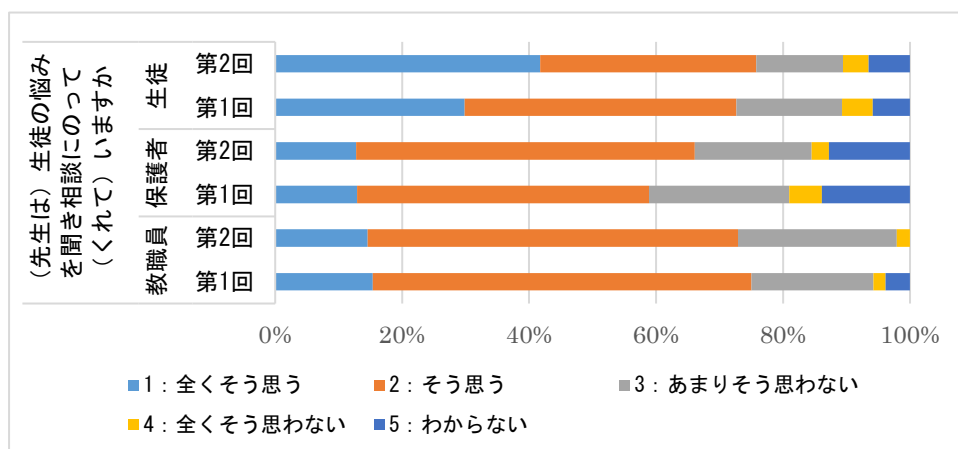
(1) 学校生活について



生徒・保護者とも8割以上が充実感を持っていることに安堵する一方、否定的な回答もあることに留意し、次年度以降も学校全体として生徒の充実感を一層支援していきます。



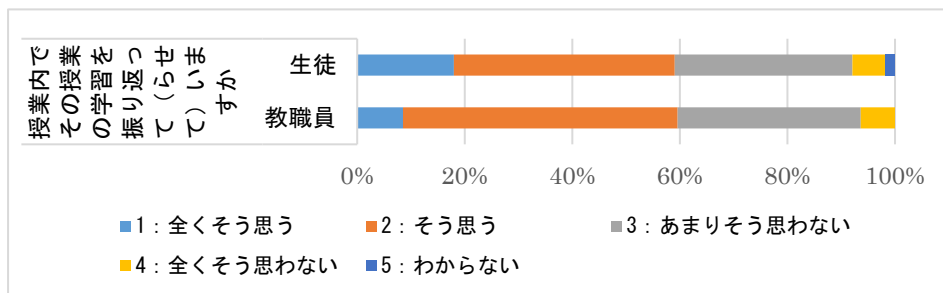
本校入学を肯定的に感じていることは、学習や部活動などの達成感によるところが大きいと考えられるので、今後も一層の充実を目指します。



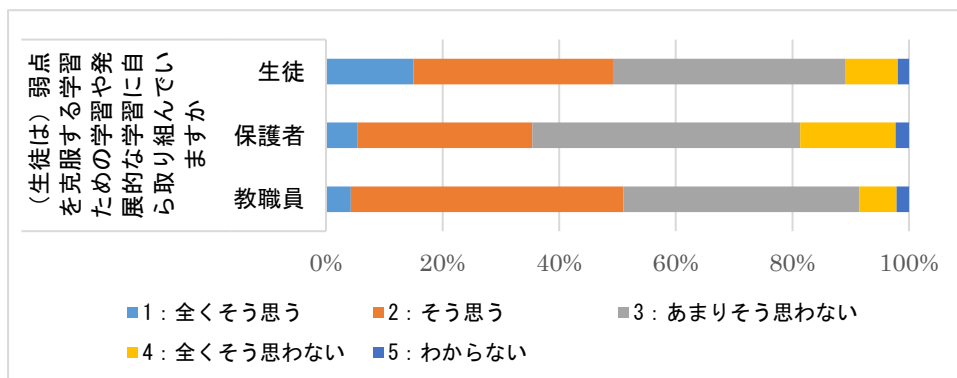
生徒と教師のコミュニケーションにより信頼関係を築くことは、学校教育において重要なことです。生徒も教職員も多忙な学校ではありますが、今後も日常生活の中で小さな機会を大切にしてい

きます。

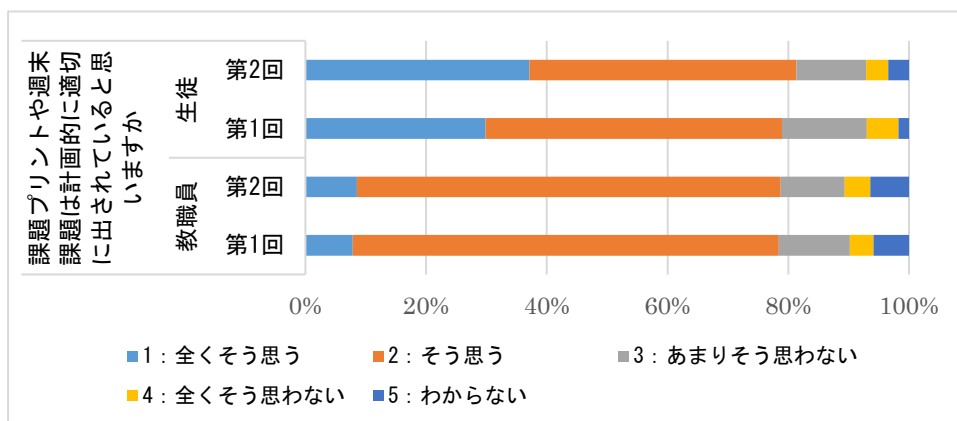
(2) 学習について



授業内容の定着に授業内で学習を振り返ることは有効であり、岩手県として本年度の目標値を55%と掲げています。本校生徒は上回っています。今後も一層の授業改善に取り組みます。

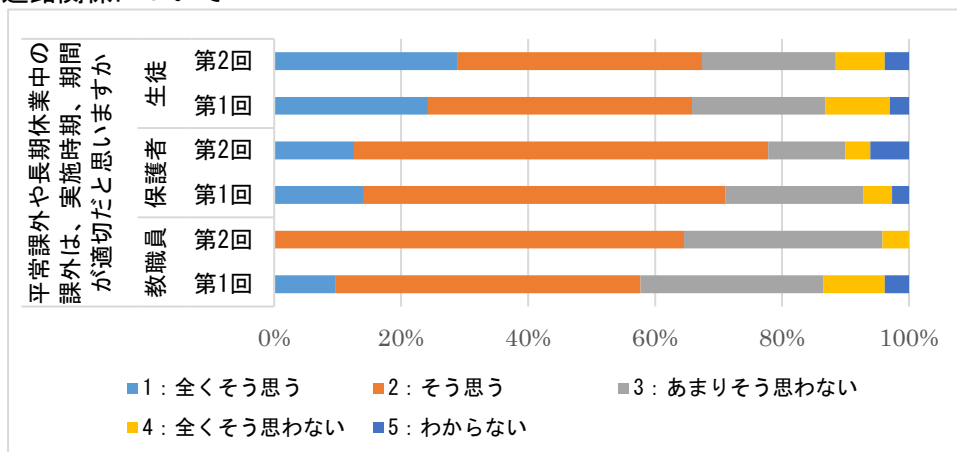


弱点克服や発展学習への「自発的な取り組み」こそが、学力向上や進路達成に直結するものと考えています。岩手県の目標値の45%を本校生徒は概ね達成しています。今後一層、自発的・主体的な学習の取り組みを支え、促していけるよう取り組みます。



課題プリントや週末課題については、学習に対する「自発的な取り組み」との関わりから、バランスや提示の仕方について今後検討が必要です。生徒の実態を見極めて、この後も検討していきます。

(3) 進路関係について



平常課外、長期休業中の課外については、肯定的な回答が7割に届いていないことが課題です。夏の課外については、冷房の無い環境での実施について検討を臨む意見もあり、実施時期や期間等、対策の検討が必要と考えます。

(4) その他

「本校が魅力ある学校だと思うか」の肯定的な回答は、生徒83.5%、保護者88.9%である一方、「授業により十分な学力を身につけているか」の否定的な回答は、生徒39.2%、保護者50.9%と極めて高く、本校の重要な使命である学力向上、学力の定着は大きな課題です。「学習と部活動に対し、時間のバランスを取りながら取り組んでいますか」の肯定的回答が58.4%、否定的回答が38.6%（わからない3%）であり、部活動の在り方が今後検討のポイントになりそうです。

自由記述に対する検討につきましては、改めて回答いたします。授業や部活動等について、具体的なご意見もいただいております。真摯に受け止め、生徒のためのより良い学校づくりに活かして参ります。

第2回学校評価では、地域事業所や地域住民、学校評議員からも意見をいただいております。その中で自転車の走行マナーが良くなったというご意見を複数いただいていることは嬉しいことです。生徒一人ひとりの心掛け、ご家庭でのアドバイスやご協力あってのことと感謝申し上げます。

4 終わりに

大学入試改革の関連で学力の3要素が「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」と示されていますが、このうち、「主体性」は「自発的な取り組み」として、「協働性」は地域への貢献や協力活動として、今後検討してまいります。

本年度も種々のご協力とご理解に心より感謝申し上げます。